

特定非営利活動法人びーのびーの 2022 年度事業報告書

2022 年 4 月 1 日～2023 年 3 月 31 日

【1 年を振り返って】

2022 年 6 月の総会で承認された「中期計画『2 歩先へ!』」に沿って、夏から役員および事業代表者を交え、策定の3つの柱ごとにセッションを行いながら、各指針の実現に向けた話し合いを行ってきた 1 年であった。

同時期に「COCO しのはら」においては横浜市都市整備局所管の「まち普請」助成事業に申請。ほぼ 1 年間かけて「ガーデンコミュニティをつくろう会」という実行委員会を束ね、これまで COCO しのはらを見守って来てくれた支援関係者やボランティアとともに、庭や外構、エントランスのバリアフリー化のための助成申請を行った。1次審査は通過したものの、残念ながら2次審査で不採択にはなってしまったが、強力なまちづくりアドバイザーからの伴走を受け、チーム一体となり、今後の方向性やあるべき姿を十二分に語り合えた貴重な時間となった。そしてこれからも自前で取り組める範囲で改善していくミッションが生まれた。

子育て支援施設の運営事業として、「どろっぷ」「どろっぷサテライト」「菊名ひろば」において、居場所機能を活かした連携が具体的 2 本柱でより深まった。1つは、市内5区がモデル事業となった地域子育て支援拠点に「親になる支援事業」が実施され、父親支援や第2子家庭に向けたプログラムの実施など両親教室をはじめとする産前産後支援事業が主軸となったこと。もう1つは、これまでどろっぷで提案してきた「新横浜地区での出張ひろば事業」の実現である。菊名ひろばやどろっぷ、近隣の常設の場や地域の支援関係者に繋がっていけるための入口のための1つの取組みを協働で開発できたことは大きかった。まだどろっぷについては「子育てサポートシステム事業」へのDX化を市と共に検討、推進してきた 1 年であった。

「産前産後ヘルパー派遣事業」は、こども家庭庁創設のための準備期間において、制度の充実化に向けた提言のためにその活動実践を可視化、発信し続け1年であった。ヘルパー登録も前年度比20%増となり、比較的若い層の支援に厚みが出たことも今後の可能性を示唆している。依頼やマッチング、研修のあり方なども大きく前進したことも成果である。関連して2020年からの休眠預金助成事業「新生児ファミリーミニステイを実現するためのプラットフォームづくり」においては、これまでの研究やネットワークを活用し、丁寧なコーディネートをもとに試行版を終え、最終報告フォーラムおよび報告書を完成させ1つのノウハウを蓄積することができ次年度へ繋いでいける道筋を立てられることになった。産前産後の早期から地域の心ある住民との出会いを子育て家庭に繋いでいくための1つもモデル事業である。

「ちいさなたね保育園」は認可園になり初の卒園児を送り出した年度末であった。保護者や園児と園との確固とした信頼関係が醸成され、認可園運営の醍醐味を職員全体で体感した場面でもあった。激変している保育事業の中で常に「まちが保育園」の理念のもと、スタッフにも共有化され、実践が広報媒体などに取り上げられる場面も多かった。いよいよ学童期への繋がりを法人として本格的に地域で体現する時が来たと感じ、日頃から小学校隣接エリアで実施している「COCOひよし」でのエリアマネジメントによる企業連携での居場所において、学童期の子達の居場所づくりにも繋がってくるテーマでもあった。

「地域remix」と「法人事務局」の再編も行われた年であり、中期計画の中に掲げられた、安心して長く働き続けられる環境づくりや、働き方改革を伴う発信性の強化と収益構造の再考を意図して年度末に図られた取組みでもあった。以上、感染が緩和されてきた中で、皆で策定した中期計画を着実に各事業ではじめの1歩として着手できた 1 年であった。

1. 子育て支援施設の運営

①「おやこの広場びーのびーの(菊名ひろば)」(横浜市委託事業 親と子のつどいの広場事業)

(1) 基本データ

| | |
|--------|--|
| ① 対象 | 主に0歳から3歳までの未就学児とその保護者 |
| ② 実施場所 | 横浜市港北区篠原北1-2-18 |
| | 月曜～金曜 9:30～15:30 第3水曜 12:00～15:30 毎月第2土曜 9:30～15:30 奇数月第3土曜 10:00～12:00 マタニティソーイング |
| ④ 従業員数 | 9名 |
| ⑤ 事業概要 | <ul style="list-style-type: none">・子育て親子の交流、集いの場の提供・産前から産後への切れ目のない支援・子育てに関する相談の実施・地域子育て関連情報の収集及び提供・子育て及び子育て支援に関する講習の実施・一時預かりの実施 |
| ⑥ 利用者数 | 年間利用者数 2,712組 1日平均 11.2組 |

(2) 報告

1) 利用形態の拡大

予約制をやめたことで、元のひろばの様子に戻ってきた下期であった。第2土曜日の1日開館によってパパの利用促進につながり、また平日利用できない親子利用が増えた。

2) ひろばアンケートの実施

月1回のフリーミーティングを継続し、活動が無理なく行えるようにサポート。通常のひろばアンケートに加えて子育て全般のアンケートも実施したことで多くの気づきが得られた。

3) 座談会と講座の開催

昨年度に引き続き「パパ講座」を2回、0歳児向け座談会を6回開催。その他、誰でも参加でき、日頃の子育ての悩みをみんなで話せる「ほっこりおしゃべり会」を年5回開催。自分や家族についても語りあえる時間となった。

4) 産前から産後への切れ目のない支援の実施

区の妊娠期事業として継続しているマタニティソーイングを年6回実施。地域子育て支援拠点や地域ケアプラザでの両親教室に5回参加。また赤ちゃん会などにも出向き広報を行い、顔を繋ぐことで産後のひろば利用に繋がった。

5) 地域連絡会の開催

再開されてきた地域の子育てサロンや交流イベントに積極的に参加。地域連絡会では新しく学校連携を推進する方にも参加してもらい、近隣中学校との3年ぶりのふれあい体験にもオンラインで参加。利用親子に協力を得られた。SNSやひろばで地域情報を積極的に発信し周知と利用に繋がった。

6) スタッフ間の共有と連携に努めた一時預かり

ひろば利用時の親子の様子を共有し、密に連携することで安心した預かり、みんなで見守れる温かい雰囲気づくりができた。信頼を得て安心して預けることができたという声が多かった。特に0歳児の利用が多く、年度途中でも登録、利用する家庭が増えた。

②港北区地域子育て支援拠点どろっぴ

(港北区地域子育て支援拠点委託事業)

(1)基本データ

| | どろっぴ | どろっぴサテライト |
|--------|--|----------------|
| ① 対象 | 主に0歳から3歳までの未就学児とその保護者 | |
| ② 実施場所 | 横浜市港北区大倉山3-57-3 | 横浜市港北区綱島東3-1-7 |
| ③ 開催日時 | 火曜～土曜 9:30～16:00 (隔月日曜開館あり) | |
| ④ 従業員数 | 30名 | 20名 |
| ⑤ 事業概要 | <ul style="list-style-type: none"> ・子育て親子の交流、集いの場の提供 ・産前から産後への切れ目のない支援 ・子育てに関する相談の実施 ・地域子育て関連情報の収集及び提供 ・子育て及び子育て支援に関する講習の実施 ・ネットワーク ・人材育成 ・利用者支援事業(一時預かり事業) ・横浜子育てサポートシステム(以下:子サポ) | |
| ⑥ 利用者数 | 31,012名 | 31,119名 |

(2)報告

1)利者の参画意識をカタチに

両拠点で「どろっぴみらいカフェ」を定期的実施し、ひろばの環境づくりから来館しづらい層に向けたアプローチを一緒に考える機会を持つなど自助共助の関係づくりを体感しながら他利用者への働きかけの促進ができた。

2) テーマ別座談会の実施

相談傾向を受け、テーマ別座談会として「ひとり親の会」「1歳児前後の会」「第2子の会」「20代の会」「40代の会」など、同じ境遇の家庭との共感や仲間づくりの機会を創出し、場への愛着や参画意識を醸成した。

3) 親になる支援事業の導入

区と協働し、市域のモデル事業として父親支援や第2子家庭に向けたプログラムを実施することで、区としてもこれまで関係を持ちづらかった層にアプローチすることができた。

4) 乳幼児ふれあい体験事業の再開

近隣の小中学校、また市立高校からの依頼が再開し、隣接区の拠点やひろば事業とも協働し、体験事業の実施ができた。生徒が親になるイメージや子どもへの愛着が得られる次世代育成の観点からの開催意義を学校や関係機関と共有することができた。

5) 新横浜地区での出張ひろば事業の実現

長年の懸案だった重点エリア地区での出張ひろばを区と協働して新横浜地区に2か所所してもととの商業テナント内の相談会場を含めて、計3か所で資源を生むことができた。支援関係者やエリア内対象2ひろば、企業や保育園など多様な主体の協力体制で実現できたことや利用家庭が増えていることが成果である。

6) 北部4区との子育てサポートシステム予定者研修会の開催

もともと少なかった研修の機会を乳幼児人口が増えている北部4区(緑区、青葉区、都筑区)とで提供、両方会員を育成する会をリアルで開催することができた。

7) 自主事業である「シェアねっと」の食料配布の拡大

コロナ禍でも区の広報によりひとり親家庭からの配食ニーズは増し、仕分けにナルク東横浜の協力を得た。

2. 子育て支援に関する事業

①産前産後ヘルパー派遣事業

横浜市委託事業

(1)基本データ

| | |
|--------|--|
| ① 対象 | 横浜市内に住民登録をしている世帯で次のいずれかに該当する世帯 (1) 妊娠中で、心身の不調等により子どもの養育に支障があり、かつ日中家事又は育児を行う者が他にいないため、支援が必要な世帯。 (2) 出産後5か月(多胎児の場合は出産後1年)未満で、日中家事又は育児を行う者が他にいないため、支援が必要な世帯。 ※自主事業に限り、概ね1歳まで利用可能 |
| ② 実施場所 | 主に利用者の自宅(利用者の外出付き添い・買い物は可能) |
| ③ 業務時間 | 市事業 :月曜～金曜 9:00～17:00(12/29～1/3・祝日は除く) 自主事業:月曜～日曜 9:00～19:00(12/29～1/3・祝日は除く) |
| ④ 従業員数 | 4名(ヘルパー57名) |
| ⑤ 事業概要 | 対象世帯に対して、登録の家事・育児ヘルパーを派遣する。 横浜市委託事業の他、自主事業も行う。 |
| ⑥ 利用者数 | 利用回数 1907件(うち自主事業分 34件) |

(2)報告

1)隠れたニーズに気付く支援

登録時の依頼ニーズを把握する際のコーディネート力の強化をはかり、実際の家事援助へのニーズのみならず、孤独や不安などの背景をくみ取る親との会話、コミュニケーションの大事さを共有した1年だった。毎回のヘルパーからの活動報告からの読み取りの大事さも改めて再認識した。

2)育児支援ヘルパー

登録はしていたが今年度の依頼はなかったが手厚いフォローが必要な家庭も多かった。

3)ヘルパーへの定期的支援

需要と供給が必ずしもマッチしない中、登録更新に向けたモチベーションの維持に努めた。登録更新しないヘルパーには法人会員を薦めるなど、継続的に子育て支援に繋がっていけることに注力した。

4)法人内他事業へのヘルパー派遣事業への理解と協力の薦め

各事業の定例会などの場にコーディネーターが積極的に出向き、ヘルパーへの呼びかけ依頼と共に制度利用の正しい案内等ができるような説明を行った。コーディネーターの他事業活動の理解にもつながり相互の研修の場にもなった。

5)研修内容の検討

フォローアップ研修制度や依頼の平等および簡便化を狙ったSNS活用の検討を行った。

6)産前産後支援拡充のための事業提案などに積極的に参加

ヘルパー派遣事業の拡大のため、事業の周知や休眠預金助成事業の「産後のおうち」事業への積極的な協力を行う中で、ヘルパー派遣事業の実態や課題、可能性などのまとめが完成した。

3.子育てに関する地域の情報発信

(1)基本データ

| | |
|--------|---|
| ① 対象 | 子育て世帯 |
| ② 実施場所 | 横浜市港北区大倉山2-7-47 シャトレ大倉山103 |
| ③ 業務時間 | 月曜～金曜 9:00～17:30 |
| ④ 従業員数 | 9名(うち 謝金活動者2名) |
| ⑤ 事業概要 | <p>1) 情報リミックス 出版・制作・企画事業</p> <p>(ア)「びーのびーの幼稚園・認定こども園・保育園ガイド」の制作・販売</p> <p>(イ)制作・企画</p> <p>各種作成(チラシ、冊子、パンフレットなど)、港北区子育て応援マップ紙版ココマップの制作(横浜市港北区社会福祉協議会協働事業)、イベント企画・実施</p> <p>(ウ)Web制作・運用</p> <p>港北区子育て応援サイト「ココマップ」の編集・制作・運営(横浜市港北区社会福祉協議会協働事業)、トレッサ横浜 HP 内ブログ「とれおんぱーく」記事</p> <p>制作・管理(トレッサ横浜委託事業)、たんぼぼ保育園 HP 管理・ブログ記事制作、HP 制作</p> <p>(エ)書籍販売</p> <p>2)企業リミックス 子育て支援における企業との連携・支援</p> <p>「子育てと仕事の両立支援研修～家族シミュレーション」など企業への提案・協働しての取り組み、企業から持ち込まれる協働・共創の案件</p> <p>3)人材リミックス 人材発掘・スキルアップに関することを行う。</p> <p>4)信頼リミックス 任意団体・学会等の事務局受託</p> <p>(ア)子どもと保育総合研究所事務局 (イ)子どもと家族支援研究センター事務局</p> <p>(ウ)国際校庭園庭連合日本支部事務局 (エ)一般社団法人ラシク045事務局</p> <p>(オ)一般社団法人全国子育てタクシー協会事務局 (カ)NPO 法人ナルク東横浜</p> |

(2)報告

1)情報リミックス

- ①びーのびーの幼稚園・認定こども園・保育園ガイド 2023年度の販売と 2024 年度入園版の制作にかり、担当者の作業負担の軽減、サポートメンバーの力を借りながら効率化を図った。
- ②ココマップサイトの更新作業を Wordpress でできるようになった、編集メンバーがサイト修正を行った。新規メンバーが増え、特集記事の取材や制作を編集メンバー中心に行うことが実現した。
- ③横浜市の幼稚園協会都筑支部のパンフレット制作の実績が、他の制作の受注につながり、かつ新規に幼稚園独自のパンフレット制作の受注があった。毎年の制作依頼を受けることもこれまでの実績が評価されたと感じた。
- ④復帰前セミナーなどのオンライン園活セミナーを年間開催。先輩との座談会が好評であった。

2) 企業リミックス

- ①トレッサ横浜で再開した子育て家庭向けイベントが 2 回開催された。
- ②野村不動産㈱のマンション販売におけるサポート実績から区内他建設中マンションでの営業活動により情報媒体購入やコンシェルジュ派遣の道筋が作れた。

3) 人材リミックス

- ①情報制作、発信においては継続活動として地域のこどものための貢献活動として子育て当事者たちの活躍の場をつくった。
- ②オンライン園活セミナーでは先輩パパ、ママを巻き込み、セミナーの質を高めることに貢献してもらった。
- ③実習生受入れ窓口として学生からの活動報告の共有や報告会への参加など事業間で行えるようにサポートした。

4) 信頼リミックス

- ①事務局業務の効率化を行った。団体運営がスムーズに行えるようサポートした。
- ②事務局受託業務では団体ごとの関連企業や自治体との関係性を大事にすることで、それぞれとの付き合い先も増え、やり方のノウハウなどリミックス業務の幅が広がった。

4. 子育てに関するセミナー・イベント・調査等の企画実施

(1)基本データ

| | |
|--------|---|
| ① 対象 | 子育て世帯 |
| ② 実施場所 | 横浜市港北区大倉山2-7-47 シャトレ大倉山103 |
| ③ 開催日時 | 月曜～金曜 9:00～17:30 |
| ④ 従業員数 | 7名 |
| ⑤ 事業概要 | ・取材、見学対応 ・外部講演会講師、原稿作成依頼等 ・外部委員会出席等 ・絵本の会 ・助成金・企画事業 |

(2)報告

1)取材・見学対応

法人が運営する子育て支援施設(おやこの広場びーのびーの、港北区地域子育て支援拠点どろっぷ)、地域福祉・交流スペース(COCOしのはら)、子育て支援支援スペース(COCOひよし)で施設見学、説明を行い、事業の啓発、情報交換の場とすることができた。またこれらの現場は、他からの実践者のための実務体験の場として活用されている。

2)外部講演会講師依頼対応

大学関係(早稲田大学、聖心女子大学など)、団体(NPO 法人まちぽっと、世田谷トラストまちづくり)、地方団体(群馬県、和歌山県など)、ほか講演依頼、原稿依頼あり

3)外部委員会・審議会出席等

内閣府子ども・子育て会議委員/厚生労働省成育医療等協議会委員/国土交通省 子育てにやさしい移動に関する協議会/横浜市バリアフリー検討協議会/港北区ボランティアセンター運営委員会/住井友生命 未来を強くする子育てプロジェクト実行委員会委員 など多数参加

4)絵本の会

少しずつイベントが再開し、おやこの広場びーのびーのにて毎月のおはなし会やバザー参加、法人内COCOしのはら・COCOひよしにておはなし会開催。新メンバーが増えた。

5)シェアねっと

ひとり親支援として、配食提供活動に切り替え、「シェアねっと」として他機関、主にNPO法人セカンドリーグ神奈川の「ビーバーリンク」のネットワークに参画し、年間延べ約 〇〇〇 の食品セットを利用家庭に届けた。配送についてはフードバンク横浜からのボランティアの方の協力を得て、配送センターから現場まで運搬してもらいつつ、区の特別扶養手当窓口での広報協力もあり、ニーズが増えてからはその仕分け作業にNPO法人ニッポンアクティブライフクラブ東横浜(通称:ナルク)の時間預託活動の一環で協力体制を構築。物資提供が多い時は買りの区内放課後キッズや学童保育などにも配布した。

6)助成金・企画事業

①新生児家庭を育む「新生児ファミリーミニステイ」実現のためのプラットフォームづくり

(休眠預金活用によるNPO法人まちぽっと「市民社会強化活動支援事業」)

助成金3年目の最終年度にあたり、計22回のオンライン定例会を行い、10～12月に対象となる産前産後の利用家庭15家庭の試行版を区内2施設で実施。調査報告書の作成と評価委員からの示唆を受け、2月に最終報告フォーラムを開催。約90名が参加。次年度の実走に向けて確実な手ごたえを受けた。

5. 保育事業の運営

認可保育所 ちいさなたね保育園

(横浜市補助事業)

(1) 基本データ

| | |
|--------|-------------------------|
| ① 対象 | 0歳から就学前 |
| ② 実施場所 | 横浜市港北区師岡町846-1 |
| ③ 開催日時 | 月曜～土曜 7時30分～18時30分 |
| ④ 従業員数 | 33名(正規職員 16名、非常勤職員 17名) |
| ⑤ 事業概要 | 認可保育所 |
| ⑥ 園児数 | 60名 |

(2) 報告

1) 年間メリハリのある保育計画

上期を2期にわけ、前半の午後はなるべく園内で過ごし、園児と保育者との関係性づくりに努めた。後半夏のプール活動は学年で他の時間は園内で過ごした。下期からはおやつ後は好きなおうち、園庭で遊ぶことなど(「いけいけゴーゴー」)メリハリをつけて過ごした。

2) キャンププロジェクトへの確かな繋ぎ

学年で活動することで年長児に行うキャンプ計画と実施が深まった。

3) コロナ下だからこそ深まった保護者との連携

保育士との普段の関わりが活きたのが保護者との関係性であり、課題はありながらも保育士に全面的に付託してくれる強く厚い信頼関係が構築された。こうした集大成が認可園になって初めての卒園式でのシーンでもあった。これまで卒園した元園児家庭や元職員などが一同に会し、保育園を中心にできた絆を全員が再認識できた時間だった。

4) 研修などへの積極的参加

近隣他保育園と合同で近隣公園で合同遊びができたことあ、同じ近隣園とオンラインでお手紙交換などの交流を実施。また近隣小学校3年生からの手作りおもちゃをプレゼントしてもらい、お礼のやり取りをするなど、運動会での体育館を借りたり(結果的に感染症のために中止)、図書室での本を貸し出しさせてもらったり、地域支援者の仲介もありこうした連携ができたことは大きな成果であった。

5) 食育活動にも挑戦

味噌づくりや包丁を使っでの調理活動、実際の家庭からの情報を献立に取り入れるなど行った。活動目標である「食はいのち」の目標を少しでも実現することができた。

6. 地域福祉・交流に関する事業

①地域福祉・交流スペース COCO しのはら

(介護予防・日常生活支援総合事業)

(1) 基本データ

| | |
|--------|--|
| ① 対象 | 子どもから高齢者まで |
| ② 実施場所 | 横浜市港北区篠原町1077 |
| ③ 開催日時 | 月曜・水曜～土曜 9:30～15:00 |
| ④ 従業員数 | 6名 |
| ⑤ 事業概要 | <ul style="list-style-type: none">・横浜市介護予防・生活支援サービス補助事業通所型の実施・食事を通じた交流づくり・日常的な多世代交流の場・未就園児のグループ預かり・趣味の講座や得意なことを活かせる活動スペース・地域連携及びネットワークの強化 |
| ⑥ 利用者数 | 年間 約5,000名 |

(2)報告

1)ボランティア活動内容の明確化

学生ボランティアなど若年のボランティアの受入れを行うことや、手づくり品を販売する等、参加者の自主活動につながる取組みを実施。Instagramをおおいに活用し、それぞれのできること、活動の様子を可視化するよう努めた。

2)見守り対象者を増やす

篠原地域ケアプラザおよび近隣のケアプラザと連携し要支援者を含む対象者を増やすことを試みた。例えば講座を開催し参加者から新規利用者に繋げる努力をした。また例年通り定期的に地域連絡会を開催した。

3)飲食部門の強化

親子向けランチを始めるなどランチやカフェメニューを工夫し、新規利用者にアピールをした。

4)子育てサポートシステムを活用した一時預かりの活動の充実

1対1の預かりをすると同時にその場にいる皆が見守れる雰囲気づくりを強化し、ボランティアも子どもと交流できるよう配慮した。

5)横浜市都市整備局まちづくり課主催「まち普請」事業への申請

ほぼ1年間かけて庭および入口のアプローチなどのバリアフリー化を目的に申請。まちづくりアドバイザーとの関係も深まり、「ガーデンコミュニティをつくろう会」のメンバーを実行委員として精力的に視察や申請書づくりプレゼンなどに注力した。結果的には落選してしまったが今後につながる結束感と学びを得られた。この取組みを通じて、世田谷区の(公財)まちづくり財団から空き家活用についての勉強会に講師として招聘された。

6)レンタルスペースの問い合わせ対応・学校に行きづらい子の居場所づくり「SOW」さんとの連携

地場の自然野菜の委託販売や習いごとや懇親会の場を求めたレンタルスペースとしての活用などの問い合わせ対応が多く、認知度が高まってきた。毎週火曜日は定期的に SOW さんが居場所として活動してくれていることで学童期の子育て支援での課題を共有し、活動の視野が広がった。

②子育て支援スペース COCOひよし

(1) 基本データ

| | |
|--------|---|
| ① 対象 | 子どもから高齢者まで |
| ② 実施場所 | 横浜市港北区箕輪町2-7-60-1B(プラウドシティ日吉レジデンス I 地域貢献施設「まちのリビング」隣り) |
| ③ 開催日時 | 月曜～金曜・日曜 10:00～14:00 |
| ④ 従業員数 | 8名(1名は助成金事業覚書契約) |
| ⑤ 事業概要 | ・一社)ACTO 日吉と連携したエリアマネジメント ・子育て支援スペースの運営 ・まんまーる日吉(グループ預かり事業)の実施 ・レンタルスペースの貸し出しを通じ地域活動支援 |
| ⑥ 利用者数 | 年間利用者数4,088組 1日平均14,29組 |

(2)報告

1)親子キッズスペースの運営と情報発信の強化

下期から月間カレンダーの作成およびHPやInstagramの充実化を図ったことで利用者にわかりやすい運営を目指した。同時に地域情報も加えたチラシの独自作成も試み、全戸配布したことが好評で、同地区のこんにちは赤ちゃん訪問事業等でも活用されるようになった。月1回の「ミニバザー」の開催により、子供服や雑貨を通して地域交流の促進はもとより収益活動にもつながった。

2)イベントスペースとしての活用ニーズへの柔軟な対応

学童期向けの活用ニーズが多く、週2日以外は定期利用が入っている状況。希望する時間が午後に集中していることからニーズに応えられないくらいになっている。開館時間の変更を柔軟に行ったり同時に規約の改訂作業などにも着手している現状である。

3)グループ預かりまんまーる日吉へのニーズの高さ

年度はじめは周知に時間がかかり幼稚園無償化や満3歳児入園が増えたことで定員に満たない曜日もあったが、外遊びの積極的活用や、スポット的預かり「ときどき預かり」を企画したことで問い合わせも増えている。保育スタッフが自主的に他事業に実習に行ったり、サポートスタッフやボランティアの活用も導入しては充実した預かりの時間の創出に注力した1年だった。

4)「まちライブラリー」の1000冊を超える蔵書数

開設当初から設置してきたまちライブラリーへの寄付が年々増えている。慶応大協生館内に日吉図書取次所(愛称:日吉の本だな)ができたものの、やはり実際に選書ができるので人気は高く、小学生や保護者が足を運ぶきっかけになっている。

5) 常設の場を活かしたさまざまな地域交流活動による活性化

レジデンスⅢまでの入居が終わり、3年目でまち開きを迎え、ACTO日吉全体で行った「きちじつ△」等のイベント等への参画やコーディネートを行った。またイベントの一企画「ヒヨシティ」から派生した交流企画が活発化した1年で、次年度への継続案件ともなった。また隣接の箕輪小学校の見学会はコロナ禍で開催回数は1回だけだったが、授業での出張講座や受入れも含めて連携は年々深まってきている。放課後や土日の学童期の居場所に確実になっている。さらに「ぶれジョブ@IN つるみ」の活動の受入れ場所となり、障がいをもった人の通ってくる居場所になれるよう多様なひとたちが行き交う場になっている。

6)YS 市庭コミュニティ財団「子どもたちの午後の居場所～GOGO ひよし～」の助成事業

前年度から9月まで同財団助成事業での調査・試行開催を受け、月4～5回の延長開館、イベント講座開催、野外交流会、夜間交流会などを開催し、小学生の居場所づくりを実施。学童期支援の課題と支援のあり方を検討中。※2022年度4～9月助成金事業名「ひとりにならない箕輪長PJ」

7. 上記の事業を行うために必要な一切の活動

(1)基本データ

| | |
|--------|---|
| ① 実施場所 | 横浜市港北区大倉山2-7-47 シャトレ大倉山103 |
| ② 業務時間 | 月曜～金曜 9:00～17:30 |
| ③ 従業員数 | 4名 |
| ④ 事業概要 | ・法人全体の財務、労務管理 ・法人運営に関する一切の会議開催(理事会(年3回)、運営連絡会(毎月)、会計チェック(毎月)、事務担当者会議(年2回)) ・学生インターン活動支援 ・法人内部研修開催 ・会員登録、寄付金協力の手続き及び管理 |

(2)報告

1)安定した法人運営を行うための基盤強化

事業代表者会議を毎月1回行う中で、議事、議事録の共有についてはグーグルドライブを活用し管理するなど効率化を図った。自主事業の運営については助成金申請のサポート等を通して、応援体制に注力したが、結果的に民間助成金の獲得には至らなかった。新型コロナウイルス対策補助金の活用については対象事業において確実に申請できるようなサポートを積極的に行った。

財務管理、労務管理については中期計画での目標を達成すべく、専門職の協力のもと少しずつ前進できたが、勤怠システムの導入、各事業部門の事務的業務の自立支援などについては次年度に持ち越すことになった。

2)研修システムの体系化

新任職員研修や職員全体研修などについて予定通り開催することができたが中堅者研修やフォローアップ研修については予定通り進まない部分もあった。事業間での研修に臨む諸条件の整備が急務であることが認識された。一方で寄付金を活用した子育て中の職員が業務に臨む際の保育費補助などの応援システムは利用形態に課題はあるものの一定の職員には享受してもらうことができた。

3)学生インターンの採用とメンター制の復活

今年度2名の学生インターンの関わりがあり、その活動保障と現場でのメンター制度を充実させた。

4)会員管理と寄付キャンペーンの実施

昨年度の周年事業での大規模寄付キャンペーンの引き続き、今年度も実施。アニュアルレポート(年次報告書)の制作物をもとに寄付を募った。少しずつ整備されつつはあるがキントーンシステムを最大限活用するには至らず、次年度に向けて整備していく予定。

5)情報発信の新たなツールづくり

日常的かつメッセージ性が高い情報発信の必要性から、法人と子育て支援拠点事業と連動した「note」の記事作成と定期的配信を開始。法人横断的な情報発信のコンテンツづくりや運用の連携が本格的に始まった。

6)次年度に向けた新規案件への対応

新横浜地区の新築マンションにおける地域貢献施設の運営委託や3年間継続事業であった休眠預金助成事業のその後の活動のための各種民間助成金の積極的申請など行った。また組織改変に基づく事務局と地域 remix の再編を行い、それに伴う、事務所スペース拡大と引っ越しなどの作業を、プロジェクト(名称:「Hananea」)を組んで対応した。